産業建設常任委員会　摘　録

１．開　催　日　　令和８年５月14日（木）　　第２委員会室
２．出 席 委 員　　吉川遂也委員長　宇山茂之副委員長　福山権二　徳永泰臣　堀内富夫　木山義仁
３．欠 席 委 員　　なし
４．事務局職員　　横山和昭議会事務局議事調査係長
５．説　明　員　　なし
６．委員外議員　　なし
７．傍　聴　者　　なし
８．会議に付した事件
　　１　所管事務調査について

－－－

午前11時00分　　開　　議

○吉川遂也委員長　　ただいまから産業建設常任委員会を開会いたします。傍聴、録音、写真撮影、録画を許可いたします。

－－－

１　所管事務調査について

○吉川遂也委員長　　所管事務調査について、農業振興計画及び多様な担い手に関する調査を行ってまいりました。本日はその点についてのまとめをしたいと思います。できれば次の定例会で報告を上げて、農業振興計画についての調査は終了へと持っていきたいと考えております。また、この農業振興計画の取りまとめについては、副委員長に下案をとりあえずつくっていただきたいと思いお話をさせていただいているところです。本日、まとめに関しての意見を出していただいて、さらに追加等がありましたら副委員長を通じて取りまとめに反映させていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。では、この間まで農業振興課を招いていろいろなお話、あるいは今年度、新規の補助金の体制等について調査してまいりました。その点について、皆さんから御意見や感想などがありましたらお願いしたいと思います。大まかなところを申し上げますと、これまでの農業振興計画と変わったところといえば、農業基本法が変わったことに伴い、今までの大規模化あるいは法人化等の方のみに農地を守っていただくのではなく、多様な担い手に農地を守っていただく方に広げていこう、そこを補助金の体制の中にも生かしていこうという流れができてきたことです。それを基本に、市の農業基本計画も振興計画も策定されてきたと思っております。そんな中で、経営的な農業と、あるいは地域を守る形の農業という二本立ての体系、いわゆる地域承継型農業という二つの体系で今回の農業基本計画ができていると記憶しております。皆さんから、今回の農業基本計画、農業振興計画の変更に伴って、我々がずっと追いかけてまいりました点について、最終的にできた計画の感想などがありましたら御発言いただければと思います。

○木山義仁委員　　農業振興計画について、先ほど委員長がおっしゃった国の基本法に基づく基本計画が見直しされたことで、国の農業をどうやって守っていこうか、食料安全保障をどうやって確保してい

こうかという方向性の中で、市の農業振興計画がもうかる農業を進めていくこと、そして農地を守る地域承継型という二本柱を立てられたことは、まさにこの農地を守っていく地域承継型の農業において、庄原市にマッチした、実態に応じた取組なのかなと受け止めております。もうかる農業、そして農地を守る農業という、この二本柱が農業振興計画に策定されたことで一定の評価といいますか、本市の実態に応じた計画になったのかなと感じております。

○福山権二委員　　結局、我々はトータルで５回ほど委員会を開いて審議してきました。第３期長期総合計画が最上位計画なので、その情勢分析をもとに、これからの庄原市の農業をどうするかという第３期の計画ですが、基本が変わったからそれに即して変えるということもあるのでしょう。しかし、計画書が 97 ページもあり、総合的に何でも書かれている中で、庄原市がどこを中心にするのかという問題があります。もうかる農業といっても、あまり突出していいものはありません。最終的に、最後の３月に委員長がまとめられたように計画ができましたので、これをずっと追いかけていこうと思います。補助金があっても、使える人がいないと使えません。そういうことがどれだけあるかということです。中身がこれでは不十分だから、ここにこのようにしろと言うのはなかなか難しい状況です。計画としては現状を踏まえてつくられているので、これに沿って、議会としては具体的な補助金行政、特に担い手についてずっと追いかけていくということしかないのではないかと思います。ですから、対案ができるということもありません。ただ、最近の農政で、直接支払いの充実をずっと求めているようですが、関係する審議会も全く開かれていません。制度の対象を広げるだけで金額的にアップすることもないので、そこは国との関係でいえば大変厳しいのでしょう。今後、農地を大規模にしてやっていこうとしていますが、これから担い手をどう育てていくのかが一番大きなポイントです。できるだけの補助金行政をしながらやっていくことで、計画自体はよくまとまっているのではないかと思います。

○徳永泰臣委員　　言われたように、計画段階なのでこの程度でいいとは思うのですけれども、もう少し具体策は欲しいなという気は本当にしています。庄原市の特性を生かした農業をやるとかと言われているのですけれども、実際にどういうことに特化して進めていくのか。そういうことをやって、これだけ経営的に成り立つというモデルを示すのは計画の中で難しいとは思うのですけれども、そういうことも必要ですよね。そうしないと、計画をつくる意味が薄れてくるのではないかと思います。これからは何に特化して進めていくのか、例えばネギをやったらどれだけあったらどれだけ収入があって、経営的に成り立つというようなことを数値的に出してほしいなと思います。それはこの場だけで、特に文章に載せてくれというようなことはないです。

○堀内富夫委員　　計画の大枠は木山委員のおっしゃったとおりの感じで、二本立てというのは非常にいいのかなと思いました。あと、多分これからの話になると思うのですけれども、情報の開示というか、本当に欲しい人のところにいかにその補助金などの情報を届けるか工夫が必要なのかなと思います。あとは大規模のほうでいいますともうかる農業ということで、ないとは思うのですけれども、情報を占有して、ビジネスチャンスがあるにもかかわらず本当に欲しい人のところに情報が届かないまま一定のところだけ大きくなっていって、大きくなり過ぎて無理が生じてとならないように、全市的に取組ができるようなやり方でやっていけるようにしていけばいいのかなと思います。

○宇山茂之副委員長　　皆さんが言われたとおり、計画については、大体、地域を守る農業、もうかる農業という二つの視点でいろいろな計画をされておられまして、おおむねいいと思います。ただ、農業

振興に対しての計画に待ちの姿勢というか、現状やられている人たちが補助金の対象とか、いろいろな制度を使い進めるような計画になっているのですが、高齢化が進む、耕作放棄もどんどん進む中で、それに追いついていけるかどうか。そういったものに歯止めをかけるような計画も一つ必要ではないかと思います。新しい農業従事者に対する援助などはあるのですが、計画を実効性のあるものにしていくには、それを呼び込む仕組みづくりを今からやっていかないといけないのではないかと少し感じたところです。

○福山権二委員　　例えば自分でいえば、農業といえば米づくりと野菜を作って売るわけではないですけれども、今、地域の中で農業者の方が何に困っているかというと、計画にそこまでは書いていません。やる人がいなくなるということです。あと５年もしたら農業をやる人がおらずに、誰かにやってもらうということで、やってもらう人を探すのが今、精いっぱいなのです。山内でRMOをやっていて、それには国の支援もあったりいろいろな支援もあったりして、100％補助の 1,300 万円ぐらいが予算化されているのはものすごく珍しいことで、それを今度、高野でもRMOをするのですよ。地域づくりと一緒になったような農業になっていくというか、本年度になって、補助金のパンフレットはまだ作っていないのです。それで、財政課に行くと、打ち出すから待ってくれと言われました。今までは窓口に冊子が置いてありました。これだけたくさんの補助金行政をして支援するのなら、補助金がどれだけあって、それがみんなにどれだけ行き渡っているかを点検しなければいけないです。補助金行政をすると、100 万円のものを買っても１万円のものを買っても、申請するのに相当な手続が必要で、結果なども全部出します。簡単に出せるのはどうかと思いますけれども、そこらの取り扱いを何か改善する手があるのかがまだ確認できていません。補助金を使っていて、複雑過ぎるとか困ったということはよく聞くのですけれども、そこらがどのように改善されているかも、これからもチェックしていなければいけないです。担当課なども補助金が適正であったかどうか、実績が本当に合っているかどうかをチェックするだけでも、補助金が増えれば増えるだけ大変だというようなことを、議会としてもずっと追いかけていくことが必要なのではないかと思います。

○吉川遂也委員長　　補助金については、去年まであった補助金の体系と大きく変わりました。基本計画が変わった中で、地域承継型農業支援事業、今までがんばる農業という部分で補助されていたところが、今までは米づくりに汎用できるようなものは無理だ、あるいは草刈りの機械も難しいなどいろいろありました。しかし、今回から広げるという意味もあったのでしょう。ハンマーナイフモアやリモコン草刈り機なども補助の対象に加わりました。あるいはスマート農業の推進に向けて省力化といったところで、機械の導入にプラス 100 万円ぐらいを補助しながら、空中散布をするような機械に向けて地域で取り組んでほしいというような誘導もあったように思います。今後それを十分活用できて、先ほど福山委員が言われたように、地域の農業を守るという観点で、個人の農業のみならず地域承継というところで地域の農業を守っていくような農業、補助金になればいいかなというところもあります。そこまでつくるところまでは、我々の委員会で所管してきました。小規模農家に対して、小規模という定義をどこまで拾うかは、出荷をしておられるところに落ち着いたと思います。道の駅等に出荷の品目が少ない、あるいは生産者が減ってきたところを、こういった補助金を活用してさらに出荷者の意欲が広がっていくところを目指した補助金、体制をつくられました。今後はそれぞれの委員の中で、この補助金は本当に使いやすいものなのか、あるいは現状に合っているのかを、それぞれの観点から追いかけていかなければいけないと思っております。１点付け加えますけれども、県にも同じ

ように農業関係の補助金がありまして、この間私のところに、畜産関係の飼料作物を作る機械にトラクターも含めて500万円を上限に補助金を出すというものが直接来ました。すごくいいなと思ったのですが、畜産関係の方からすぐ電話がありました。単年度事業なので、２月までに納品と支払いを完了しないと補助金は出せないと書いていると。機械を今注文しても、できるのは来年の夏以降だと。とてもではないけれども、年内納品などできるわけがないということでした。要は、補助金の出し方が現場の感覚と合っていないということです。これも確かに地域承継型農業の中で、ハンマーナイフモアとか新品を４分の１でとかいろいろあります。しかし、現実にその機械がすぐ買えるのかどうかも含めて、これは現実的な対応かどうかというのは、我々の現場感覚で見ていかなければいけない部分かと思っております。もう少しいろいろな話題があったほうが副委員長も取りまとめが楽だと思いますので、今後の農業の方向性、あるいはこの農業振興計画の中にとどまらず情報提供などありましたら議員間討論として、意見が出たことをまとめの中に含める部分があるかもしれません。また意見としてあれば、お願いしたいと思います。

○木山義仁委員　　今回、この農業振興計画を策定されたということで、これからもいろいろな国の政策を含めて、フェーズがいろいろ変わってくるものだと思います。国の骨太方針ができて、水田政策も徐々に明らかになってくるのが６月だと思うのですが、そういった国の農業の大きい転換の都度、この農業振興計画が方向性に合っているものなのか、そういった検証というか見直しもその都度かけていく必要があるのかなと考えました。

○吉川遂也委員長　　ほかでいいますと、農作業のアウトソーシングです。先ほど福山委員が言われたように、農業を続けていってもらう人探しからもう難しいというところがありました。しかし、昨年度来、課長にここに来ていただいて情報共有する中で、農林振興公社がそういった下請け業務とアウトソーシング業務を広げていきたいという話もありました。農林振興公社の在り方というか、農業の請け負い方なども含めて、今後そういったところも実効的な動きがあるかどうか、農業振興公社にその受け皿となる素養があるかも含めて、注目すべきポイントかなと思っております。また、農業振興計画の中でも、そういった農作業やアウトソーシングという部分を打ち出されているところもあります。誰もする者がいなくなって、受けてくれる人もいないのでもうやめるということがなるべくないようにするための方策が打ち出されているかと思っております。それが地域で、一つは中山間とか多面的とかと地域で支える農業になるのか、あるいは農林振興公社が支える部分も必要なのかといったところも、今後は委員会活動として見るべきところかなと思っております。取りまとめが結構難しいところはあるのですが、委員会としてはどういった方に担い手になっていただいて農業を守っていくかという観点、それを実現するための補助金体制を、農業振興計画と併せて見てきたわけです。各委員からありましたように、計画としては評価できる。それから補助金の構成にしても、今後の推移を見守るが当初としてはよかろうという評価である、という取りまとめをさせていただいてよろしいでしょうか。

○福山権二委員　　法人の組織とか営農集団とか、実際にこれからの庄原市の農業を推進していく団体の現場の声を、１回ぐらいはこの委員会で聞いてもいいのではないかと思います。まとめは関係ないのですけれども、まとめの中にも委員会として、実際に農業をしている人の話を、この計画がどんどん進行していく途中の９月であるとか12月であるとかに聞いてみるのはどうでしょうか。

○徳永泰臣委員　　所管事務調査外にいうことですか。

○吉川遂也委員長　　今回は農業振興計画を新しくするというところの所管事務調査で、６月で区切りをしたい。次にもう一つ、６月までにテーマを設定しようと思っております。その中で、仮にまた農業関連でいけばその現場の声を聞く、ほかの関連で農業振興に関する調査を立ち上げるか、あるいは先ほどありました調査会として現場の方を呼ぶ、参考人招致をして対応するという点もあるかもしれません。ですから福山委員、今回はこれでまとめの方向にいかせてください。では、ほかに。よろしいでしょうか。では、以上でこの農業振興計画に関する所管事務調査については終わりたいと思います。また、副委員長に取りまとめの試案をつくっていただいて、正副委員長で精査した後、皆さんに意見をお伺いするという流れになろうかと思います。６月定例会最終日で報告したいと思いますので、よろしくお願いいたします。もう１点、鳥獣被害対策についての所管事務調査ですけれども、午後から庄原市有害鳥獣処理施設の見学を入れております。現地で資料をもとに施設の説明を受けたいと思います。公用車で行くように計画をしておりますので、よろしくお願いいたします。それぞれで質問事項等は事前に考えておいてください。ほかに皆さんからありますでしょうか。よろしいですか。以上で本日の産業建設常任委員会を散会します。

午前11時27分　　散　　会

－－－

庄原市議会委員会条例第30条の規定によりここに署名する。

産業建設常任委員会

委　員　長